



学校だより

6月号 (第191号)
令和5年5月31日発行
横浜市立並木中央小学校

平和は一人ひとりの心から

校長 齋藤 由美子

早くも梅雨のような天候が続きます。一方、じっとり蒸し暑い季節のこの雨こそが、農作物には恵みの雨。田植えの季節の到来です。

さて、78年前の5月29日に横浜大空襲があったことをご存知ですか。この時期には、必ずこれを話題にすることが、平和を大切にしている教育の一つだと信じて続けています。太平洋戦争のさなか、私の母は4歳で、南区に住んでいました。爆撃機 B29 が飛んで来る度に、防空壕に逃げ込み、恐怖にじっと耐えていたそうです。南区の黄金町辺りは、焼夷弾が雨のように降り火の海になり、川には、水を求めて苦しむ人々が重なり、それは地獄絵のようだったことなどを聞きました。特に5月29日は、500機余りの爆撃機が飛来し、資料によれば1時間に40万発の焼夷弾を落とし、不明者も合わせれば8千人以上の方々が犠牲となったと言われています。

今年の5月29日は、6年生の音楽朝会があり、伴奏や指揮を担当する子どもたちが、事前にしっかり練習し、そして学年の子どもたちは、澄んだ歌声を体育館に響かせました。最後には、全校で横浜市歌も歌いました。保護者や、みまもりかいの方々も聴きにきてくださり、穏やかに流れるこの時間、私は平和のありがたさをしみじみ感じました。

世界には、今、この時も戦争が続き、街や家が、そして人の心が破壊されていく現実があります。子どもたちには、自分たちの平和な暮らしを当たり前と考えず、小さいじめや暴力、小さな心無い言葉が、争いの始まりになること、そして、争いを回避する方法は、暴力でなく、対話すること、話し合うことだと、引き続き伝えていきます。時には、自分のことだけでなく、周囲のことを考えることも大切です。当たりの平和は、一人ひとりの考え方、相手との接し方から始まることを、ご家庭でもお話してください。

学校の来賓玄関の横の花壇に、創立15周年記念で植えた「フェイジョア」の花がきれいに咲きました。舟だまりには、かるがもの赤ちゃんが2羽、親がもの後ろについて泳いでいます。並木の街には、平和と幸せがいっぱいです。